

## スポーツ振興事業助成金「競技大会助成事業」実施報告

助成事業の実施結果及び助成金の使途に関する情報（平成30年度）

### ○助成対象事業

競技大会名 「FISジャンプワールドカップレディース2019札幌大会」  
期 日 平成31年1月12日（土）～13日（日）  
会 場 札幌市 大倉山ジャンプ競技場

種目：1月12日（土）ラージヒル（HS137）個人戦（16：30 競技開始 ナイトゲーム）  
1月13日（日）ラージヒル（HS137）個人戦（10：00 競技開始）  
参加選手数： 52名 外国選手 40名（その他海外役員・各国コーチ数 52名）  
日本選手 12名（クォーター6名＋開催国枠6名、参加国数12か国）

2012年から始まった女子ジャンプワールドカップは、女子選手の技術レベルの向上にあわせて、今季は国際スキー連盟の要請を受け、大倉山競技場に会場を移して実施、年間総合優勝を目指す世界の女子ジャンパーが多数参戦、世界トップクラスの日本選手と熱戦を繰り広げた。

1月11日、52名が予選ラウンドに臨み、翌12日の第1戦に上位40名が出場した。女子では初のナイトゲーム及び大倉山競技場で小雪の舞う中、昨シーズン平昌五輪で銅メダルを獲得した日本のエース高梨沙羅選手、また、伊藤有希選手に期待が集まる中、ベテランのイラシコ・ダニエラ選手（オーストリア）が絶好調のノルウェー：ルンビ・マーレン選手を抑え優勝、翌14日第2戦は、ノルウェー：ルンビ・マーレン選手が力強いジャンプで優勝を果たし、好調のドイツ2選手は2位、3位に入るなど、表彰台の常連の実力を見せつけた。日本期待の高梨、伊藤両選手は、地元開催での入賞は逃したものの、他の日本選手も地元での開催で着実にポイントを獲得、今季開催のノルディックスキー世界選手権等に向け、選手層の拡充と世界と闘うための重要な大会となった。

### 助成金の使途

下記の助成対象経費の一部に充当 競技会開催／助成金額 2,446,000円  
借料及び損料（会場設営機材等）  
雑役務費（競技場整備・警備等）



